



大正新聞 残 五十一号

東京霞岸島塩町の内海豊吉が娘おとよの目付守屋

儀と明治年月頃より中より成り未へ夫婦の約束あり

ども世間の憚りも有り又親類の嫌いで當月五日外より

嫁を貰ひ今婚禮の時ありと云ふが表より知らせ

込り相違結んごころが嫁

と三九度のくどくと太吉の

の罵り自身と飯の花嫁が力車にて

逃出に媒人の扇と焼へ腰をぬき海

浪の静るらるる大騒動といふ調査の

待厄分て成て親の名きを汚せし耻辱大

我儘小正月にぬよふせのあふあふとが

出来まゝとの讀る百廿五号二出

大水堂狸昇記

大正新聞

百廿五号

九一

